

ウォーターエイド グローバル戦略 2022～2032

すべての場所で、すべての人のために
——水と衛生の危機を終わらせる



WaterAid/Ernest Randriamalala



WaterAid



学校が春休み中のヴォンジーくん（10歳）とタヒアナくん（11歳）。世界の水の問題に取り組むジョルジオ アルマーニの「ACQUA FOR LIFE」プロジェクトの支援を受けて、ウォーターエイドは清潔な水・衛生のプロジェクトを実施しました（マダガスカル、アンボイバオ郡、2019年5月）

飲み水へのアクセスを求めて立ち上がったラフバー・ナガー地区のコミュニティで水質検査をする若きリーダーのドリシットさん（14歳）とラジーヴさん（18歳）（インド、ニューデリー、2020年3月）



目次

はじめに	05
第1章：水・衛生の現状	06
第2章：ウォーターエイドの今後10年の役割	14
第3章：ウォーターエイドの目標	18
第4章：ウォーターエイドのアプローチ	28
第5章：目標達成に向けて、変わるウォーターエイド	32
用語集	36
参考文献	38

ウォーターエイドについて

ウォーターエイドのビジョン

すべての人がすべての場所で、清潔な水と衛生設備を利用し、衛生習慣を实践できる世界。

ウォーターエイドのミッション

持続可能で安全な水、衛生設備、衛生習慣を届けることで、人々の暮らしを変えること。

ウォーターエイドの価値観

ウォーターエイドの組織文化を明確にし、世界各国で活動するウォーターエイドをひとつにまとめているのが、この価値観です。ウォーターエイドがどのような団体であり、どのような活動を、どのような方法で行うのかという、ウォーターエイドの本質がこの価値観に表現されています。

- **尊重**
より公正な世界を実現するために、すべての人に尊厳と敬意をもって接し、人々の権利と発言を守り、尊重します。
- **説明責任**
ウォーターエイドがともに活動する人々、支援者に対し、責任説明を果たします。
- **勇気**
活動及び情報発信において大胆かつインスパイアリングであり、ミッションを追求するための決意に妥協しません。
- **協働**
共通目標の追求のため、あらゆるステークホルダーと協力することで、その効果を最大化します。また、多様性や違いを尊重します。
- **革新**
創造性と俊敏性を備え、常に学び、社会変化を加速させるために挑戦することを恐れません。
- **誠実**
誠実さと信念をもって、平等と人権を尊重し、開かれた活動をおこないます。



▲ パートナーからの支援とHSBCからの資金援助を受け、ウォーターエイドはゴルチェラのコミュニティで安全な飲み水を利用できるように、池の水を砂で濾過するポンドサンドフィルター設備を設置しました（ダコペ郡、クルナ県、2018年9月）

はじめに

持続可能で安全な水、衛生設備、衛生習慣がなければ、誰も健康で充実した生活を送ることはできません。この3つは日常生活の一部になっているはずのものです。現実にはそうではありません。だからこそウォーターエイドはすべての人が生きるために不可欠なこの3つを手にする世界の実現をビジョンに掲げています。その世界とは、次のような世界です。

- 水をくむために徒歩で往復したり列に並んだりすること、何時間も費やさざるをえない女性がひとりもない。
- 学校に鍵のかかる利用可能なトイレがないために、より良い未来から排除されてしまう少女がひとりもない。
- 給水設備が壊れている、清潔な水がない、衛生環境が悪いといったことから、病気を繰り返す悪循環を抜け出せず停滞するコミュニティがひとつもない。
- 気候変動のために飲み水がなくなるかもしれないという不安を抱えながら暮らす人がひとりもない。
- すべての人が、持続可能で安全な水・衛生によってもたらされる機会を手にし、より充実した明るく健康な生活を送ることができる。

ウォーターエイドはこれまでも常に、世界中のすべての人が持続可能で安全な水・衛生を確保できる日を目指して活動してきました。そして、その日が来るのを早めるのがこの戦略です。

この戦略は、ウォーターエイドがパートナーや諸団体とともにおこなうあらゆる活動が最大限の効果をあげられるようにし、水と衛生の危機を終わらせるために、それぞれがしかるべき役割を果たすよう促すものであり、これまでの戦略よりも大胆かつ野心的な内容となっています。

ウォーターエイドは、町・地域全体の何千万人という人々に持続可能で安全な水・衛生を届けるための変化を促進する役割を担い、サービス事業者や政府当局がその変化を起こせるように支援や働きかけをおこないます。ウォーターエイドの働きかけによってドナーや政府、資金拠出者に理解を深めてもらえれば、それは数十億ポンド規模の資金が水・衛生の制度に流れ、最大限の投資効果が得られることになります。

ウォーターエイドのエビデンスと主張は、説得力ある実例として、特に世界が気候変動にさらされるなか、水・衛生には経済、公衆衛生、社会をどのように変える効果があるのかを示すものです。

遠隔地や社会から取り残されたコミュニティでも、清潔な水と石けんがいつでも利用できる衛生的な病院があれば、母親たちは出産することができます。医療機関がスタッフや患者の安全を守る水・衛生なしに運営するなど、考えられないことです。家庭に適切なトイレを設置して正しい衛生習慣を实践することは日常生活の一部であり、それが体調不良を防ぎ、コミュニティを病気のまん延から守ることになります。

気候変動が進むなか、コミュニティにはレジリエンスの高い水・衛生サービスがますます必要になります。ウォーターエイドは、女性と女の子たちを活動対象の中心に据えつつ、最も社会から疎外されている人々に支援を届けることに注力していきます。

これまでの戦略では、ウォーターエイドの活動を通して数百万人の人々が水・衛生サービスを利用できるようになったということで成果を測ってきました。新しい戦略では、パートナーや諸団体との連携による構造的変革を通して何億人に支援を届けられたかという、共同の成果を測ることになります。

2032年までに、ウォーターエイドは活動を通して次の目標の達成を目指します。

- **持続可能で安全な水とトイレを利用し、衛生習慣を实践できる人々を4億人増やす。**
- **低所得国の水・衛生に割り当てられる資金を年間150億ドル増やす。**

ウォーターエイドは最大限の決意と情熱と目的意識をもって活動し、世界中のすべての人に清潔な水、適切なトイレ、正しい衛生習慣を届けます。

これは起こすことのできる変化です。実現は可能です。

1

水・衛生の現状

持続可能で安全な水源がないということは、ピントゥ・ナシルさん一家にとって小川の水に頼らざるをえないということです（ナイジェリア、クワジャ村、キッサ集落、2021年2月）

水、衛生設備、衛生習慣が大切な理由

低所得国が抱える大きな問題のひとつに、持続可能で安全な水、衛生設備、衛生習慣が行き届いていないことがあります。この3つは経済成長にも人々の健康と尊厳を守るためにも不可欠なものです。貧困をなくし、ジェンダー格差を是正し、持続可能な開発に向かう道のりのなかで誰ひとり取り残さないためにも極めて重要です。

ところが現在、何十億人もの人々が水・衛生に対する基本的人権をないがしろにされ、病気や貧困に直面し、未来を奪われた生活を送っています。そのほかにも、不衛生な水、不安定な水の供給、排泄物があふれたり設計が不備だったりすることで使用できないトイレなど、水・衛生サービスの不足に悩まされている人々が大勢います。サハラ以南のアフリカでは、農村の給水スキームが、多いところで70%も機能していない状態があたりまえになっています¹。

- 世界中で毎日800人の子供たちが、持続可能で安全な水・衛生がないことに起因する下痢性疾患で命を落としています²。しかし、この状況は変えられます。生活に不可欠な3つのものをすべての人に届けられれば、毎年およそ30万人の子供の命を救うことができます²。
- 持続可能で安全な水・衛生の欠如のために、サハラ以南のアフリカ諸国では国民所得の5%が失われています。これはアフリカ大陸全体が受け取る開発援助の額を超えています³。**しかし、この状況は変えられます。**基本的な水・衛生は投資額に対して最大21倍の価値が生まれる分野であり、水と衛生への投資は間違いなく最良の選択の一つです⁴。
- 毎日、多くの女性や女の子たちは水くみに1～2時間を費やしています⁴。**しかし、この状況は変えられます。**すべての女性と女の子たちが自宅で清潔な水を利用できれば、彼女たちの時間を総合して毎年7,700万日に相当する時間を解放することができます⁴。
- 病気と闘ったり病気を防いだりして公衆衛生を保つには、持続可能で安全な水・衛生が不可欠ですが、水と石けんが備わった手洗い設備のない人々が20億人以上います⁵。**しかし、この状況は変えられます。**日常的に石けんを使って手を洗えるようになれば、下痢性疾患が広がるリスクを半分にまで抑えることができ⁶、新型コロナウイルス感染症のような病気の拡大も防止できます。
- 排せつ物処理の不備や野外排せつによって、飲み水の水源も周辺環境も汚染されてしまいます。現在、廃水の80%は適切に処理されないまま排出されています⁷。**しかし、この状況は変えられます。**持続可能で安全な給水・下水システムがあれば、水源と環境の両方を守ることができます。

これまでの進捗状況

2015年、国連加盟諸国は17項目の持続可能な開発目標（SDGs）を通して2030年までに極度の貧困をなくし、持続可能な開発を実現することを誓いました。SDGsの目標6は、世界の水・衛生の危機に終止符を打ち、持続可能で安全な水・衛生をすべての人に届けることを掲げています。この目標6が、ウォーターエイドのあらゆる活動の中心となっています。

これまでの20年を見ると、国が水・衛生を優先した開発をおこなえば大きな進歩が可能であることがわかります。2000年以降、20億人以上が基本的な水のアクセスを獲得し、27億人が基本的な衛生設備を利用できるようになり、安全に管理された衛生設備を利用できる人の数は2倍に増えました⁵。野外排せつをなくすことについても、サハラ以南のアフリカ諸国ではまだ大きな課題となっているものの、かなりの進捗がありました。インド、カンボジア、ネパールといった国々はSDGs目標6の達成に大きく近づき、それ以外のウォーターエイドの活動国14か国も前進しています⁸。

しかし、非常に多くの場合、変化を起こす力のある人たちが水・衛生をそれほど重要とは考えていません。そのため世界全体で見ると、進捗はあまりにも遅く、格差が大きくなっています。そして今、世界は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックと気候変動によって、これまでの進捗が帳消しになり、何十年も後戻りするおそれに直面しています。

世界では今も、**10人に1人が基本的な水へのアクセスがなく、5人に1人以上が基本的な衛生設備を利用できず、ほぼ3人に1人が基本的な手洗い設備を利用できません**。SDGsが目標にしているのは基本的な設備より高いレベルの設備をすべての人が利用できるようにすることですが、現在まだ4分の1の人々は安全に管理された給水設備を利用できず、2分の1は安全に管理された衛生設備を利用できません⁵。

水と衛生の危機で最も大きな影響を受けるのは、経済的・社会的に取り残されている人々です。基本的な水のアクセスがない人々の半数は、「後発開発途上国」に分類される国々に暮らしています⁵。

現在のペースでは、安全に管理された給水設備や衛生設備を2030年までに世界に行きわたらせることはできません。2015年の約束を果たすためには進捗ペースを4倍にまで速める必要があります⁵。目的意識やアプローチを大きく変えない限り、これから何十年もの間、水と衛生を世界中のすべての人に届けることはできません。これは到底受け入れられることではなく、必要でもなければ正しいことでもありません。いま大きく舵を切って、水と衛生の危機を緊急の問題としてとらえ、強い目的意識を持って取り組んでこそ、今後10年でSDGsの目標6を達成することができるのです。

世界が力を合わせれば、大きな変化が生まれます。

SDGs目標6の主な定義

基本的な設備

水

改善された水源・給水設備まで30分以内（並んで待つ時間を含む）で往復して水をくむことができる。

衛生設備

改善された衛生設備をほかの世帯と共用せずに利用できる。

衛生習慣

敷地内に水と石けんを使用して手を洗える設備がある。

安全に管理された設備

水

改善された水源・給水設備が敷地内にあり、排せつ物や重要化学物質で汚染されていない飲料水を必要なときに利用できる。

衛生設備

改善された衛生設備をほかの世帯と共用せずに利用でき、排せつ物がその場で安全に処分されるか、ほかの場所に輸送されて処理される。



歌を歌って遊ぶミアンガリー村の少女たち。この村では不衛生な小川が唯一の水源です（マダガスカル、アナラマンガ地域圏、2018年5月）



WaterAid/Jacques Nkinzingabo

▲ ダンスに興じるグループ・スコール・ニイラギセケの生徒たち。ウォーターエイドはこの学校で「Deliver Life」プロジェクトを実施して太陽発電のポンプを設置。生徒と教員のために新しいトイレ棟も建設しました（ルワンダ、2018年2月）

▶ 地下水に含まれるヒ素とフッ化物の量が危険なレベルにまで達し、その被害を受けているバーガルプルのコミュニティではワグテック社のキットを使って水質検査をしています（インド、ティラクプール村、2021年4月）



WaterAid/Anindito Mukherjee



WaterAid/Basile Ouedraogo

◀ 雨量計を見て降水量をモニタリングするブルサ・コミュニティのジャスティン・サワドゴさん。ウォーターエイドのボナムでの活動はEUとポストコードロタリーの支援を受けています（ブルキナファソ、2021年7月）

2030年の水と衛生

これからの10年で世界は急激に変化します。以下の変化は、ウォーターエイドのミッションと密接な関わりがあります。

- **気候と自然環境の変化**により、持続可能な水・衛生の実現はさらに困難で緊急性の高いものとなります。気候に関する議論やファイナンスでは水・衛生に重点を置く必要があります。水・衛生が考慮されなければ、コミュニティのレジリエンスを高めることはできません。
- **人口の変化**については、2030年までにウォーターエイドの活動国の都市人口が3分の1増加する見込みです⁹。農村部から都市部へ流入する人口が増えるなか、都市の居住地域では水・衛生のニーズが高まり、供給がひっ迫することになります。
- **新しい技術**、特にデジタル分野の新技术には、プラスとマイナスの両面があります。何もかもが変わるわけではありませんが、格差や政治の二極化が進むと同時に、水・衛生を提供する革新的な方法が生まれる可能性もあります。
- **各国内で格差が拡大**し、社会から疎外されている人々に重点を置いた対策の重要性がさらに高まります。

こうした変化の多くは不確かなものであり、ウォーターエイドのミッションにとってどのような機会やリスクになるかの可能性にも幅があります。ウォーターエイドは俊敏性と適応性の高いアプローチで、このような世界の変化に対応していきます。

政治分野、世界のパワーバランス、資金の流れにおいても、そのあり方や安定性に大きな変化が見られます。それによって、行政機関や民間セクターとのウォーターエイドの関わり方も影響を受け、コミュニティがサービスの責務履行者の責任をどのように問うかも変わってきます。ウォーターエイドはパートナーの変化に応じてアプローチを変え、常に適応しながら水・衛生の成果を求めて働きかけをおこないます。新型コロナウイルス感染症、そして今後起こりうるパンデミックへの備えとして、公衆衛生の議論が続きますが、それを水・衛生の議論推進の好機として活かすには、やるべきことがたくさんあります。

SDGsの目標6を達成するには

世界が変化し続けるなか、持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスを実現するうえで、それを阻む構造的な障壁は今後も主に5つの分野に集中すると見られています。**人、行動、政治、リソース、制度・手続き**——これは乗り越えることのできる障壁であり、**この構造全体が強化**されてはじめて決定的な変化を実現できるとウォーターエイドは考えています。

変化はコミュニティ内で起き、実質的で有意義な効果を伴ったものでなくてはなりません。その支援や評価はしっかりとした国の水・衛生制度によっておこないつつ、その進捗については地域や世界の取り組みと行動によって加速していくことが必要です。

政府には、すべての人が持つ、水と衛生設備に対する権利を実現する責任があります。すべての水・衛生事業を政府自体が実施する必要はありません。しかし、予算を確保し、重要なインフラや制度を整備し、法規を制定すること、つまり公共・民間事業者を通してすべての人に水・衛生を届けることは、政府の義務です。何より重要なことは、政府が権力や富や影響力のある人々だけでなく、すべての人に持続可能で安全な水・衛生が届くようにすることです。



ディアラマナ医療センターで赤ちゃんに
予防接種を受けさせるお母さんたち
(マリ、セグー州、ブラ圏、2018年4月)

WaterAid/Guilhem Alandry

構造的な障壁

- 政治的リーダーシップの欠如と水・衛生（特に衛生設備と衛生習慣）の優先度の低さ。
- 水・衛生の持続的な改善に割り当てられる資金や適切に使用される資金が不十分。
- 環境の悪化や水源管理の不足が気候変動でさらに進行。
- 水・衛生を担当する機関の能力不足。
- 水・衛生の提供責任者に対して人々やコミュニティが責任を問えないこと。

変化を促す要素

- リーダー・指導的立場にある人が、水・衛生は、人間の健康と尊厳を守るために不可欠であること、そして生計や就学、気候変動に対するレジリエンスに貢献するということを認識すること。
- 政府が水・衛生を国の開発の中心に据え、法規、重要なインフラ、しっかりとした制度に十分な資金拠出をおこなうこと。
- 水・衛生セクターが質・量ともに適切な資金を得て、すべての人に水・衛生サービスを提供するために効果的に使用すること。
- 市民が水・衛生を基本的人権として強く要求すること。水・衛生サービスの提供方法に影響する意思決定の場で、コミュニティ（特に女性と女の子たち）に発言権があること。

▶ 「Deliver Life」プロジェクトでシミュレンバ医療センターに建設されたアクセスしやすい掘削井戸で水くみをするミクソン・ジャカラシさん（マラウイ、カスング、2018年7月）



WaterAid/Tapas Paul

▲ Efforts for Rural Advancementとウォーターエイドの支援で衛生関連のさまざまな計画がサンダーパハリで実施されるようになってから、フスネ・アラ・ペーガンさんの暮らしは根本から改善されました（バングラデシュ、スナムガンジ・タヒルプール、2019年10月）



WaterAid/Dennis Lupenga



ウォーターエイドの 今後10年の役割

▲ 遊びに興じるニュー・サルウェインの子供たち。水不足が深刻なこのコミュニティでは家畜と共用の水源でくむ水に頼っています（エスワティニ、ルボンゴ地方、2018年11月）

▶ シュリ・レクナス・スクールでは、少女たちがプライバシーと尊厳を保ちながら月経管理ができる場所がどこにもないため、ランジータさん、カンチャンさん、サラスウォティさんをはじめとする女子生徒たちは、月経中は家にいるしかありません（ネパール、マルハマ、2021年4月）

ウォーターエイドの確かな実績

40年に及ぶ専門的な経験と集積された専門知識を持つウォーターエイドは、持続可能で安全な水・衛生に特化した世界最大の国際NGOです。

これまで40年間にわたり、ウォーターエイドは世界中の支援者の皆さまやさまざまなパートナー（現地の小規模グループから国際的な大規模組織まで）にご協力いただきながら、およそ**3,000万人に清潔な水**を、**3,000万人に適切なトイレ**を直接届けてきました。**正しい衛生習慣**もウォーターエイドの活動によって**2,000万人以上**の日常生活に定着し、新型コロナウイルス感染症対策ではウォーターエイドの**衛生キャンペーン**の対象者数が**1億8,000万人**にのびりました¹。そのほかにも、水・衛生セクターの能力を強化し、持続可能で安全な水・衛生のユニバーサルアクセスがもたらす効果について、何億人もの人々や何十もの行政機関、複数の組織に働きかけることによって、数千万人の水・衛生アクセス改善に貢献しました。

ウォーターエイドの活動が一貫して重点を置いてきたのは、いつでも蛇口から水が出て、いつでもトイレを利用でき、いつでも正しい衛生習慣が実践されるしるきを強化することです。また、格差の是正や権利に関する活動にも力を入れ、水・衛生から疎外されている人々が声をあげられるようにし、責任を負うべき人々によってニーズが満たされるように尽力してきました。保健と教育の分野でも水・衛生を中心に取り入れたしくみづくりで顕著な実績があり、気候変動対応にもウォーターエイドの活動が大きく貢献しています。



WaterAid/Sailendra Kharel

¹ ウォーターエイドでは、Global WASHの利用者と支援対象者に関する取り決めを指針とした標準的な戦略実績報告をもとに、直接支援を届けた世帯についての内部統計を作成しています。

ウォーターエイドの今後の役割

ウォーターエイドはこれまでパートナーや支援者の皆さまとともに大きな違いを生み出してきました。しかし、今後10年の課題の大きさを鑑みると、ウォーターエイドは活動の緊急性を高め、これまでよりさらに大規模な変化を促す役割を担う必要があります。

水・衛生サービスの多くは、持続可能性に乏しいという大きな課題を抱えています。水・衛生サービスが稼働し続けるために必要なのは、適切な人員、しくみ、スキル、設計、資金の整備にもっと目を向けることです。**ウォーターエイドは持続可能で安全な水・衛生のユニバーサルアクセス実現に向けた進捗を加速するために、国と地域の水・衛生システムの強化に重点的に取り組みます。**その一環として、政府、公共・民間サービス事業者、市民社会組織、コミュニティと協力して活動していきます。

SDGs目標6の達成に向けた進捗は大きく遅れたままであり、衛生設備と衛生習慣については特に遅れが顕著です。**ウォーターエイドはこれを水のアクセスと同程度にまで引き上げるため、衛生設備と衛生習慣の改善について重点的取り組みます。**安全に管理された水・衛生サービスがただちに実現不可能な場合は、ユニバーサルアクセスと水・衛生サービスの持続性を重視して、基本的なレベルの水・衛生サービスを優先させます。特に人口が増加・密集する都市の居住区など、安全に管理された水・衛生サービスが持続する可能性が高い場所においては、ウォーターエイドは安全に管理された水・衛生サービスへの投資をおこないます。



WaterAid/Med Sokhin

◀ コミュニティの給水設備の持続可能性を高めるため、シミリー社が開発したAIセンサーを貯水槽に設置（東ティモール、マウバラ準県、ググルー村、ルテカス、2019年11月）



WaterAid/Laura Pannack

世界的に、都市部と農村部の両方が大きなサービス格差を抱えており、なかでも「後発開発途上国」ではその傾向が強く見られます⁵。公式の試算によると、最も改善が遅れているのは農村部ですが、都市部（特に非正規居住区）ではデータが乏しいため、都市部の水・衛生サービスの格差は実際の規模より低く見積もられている可能性があります。今後10年は農村人口より都市人口の増加が大きくなる見込みで、そのほとんどは非正規居住区への人口流入であり、そうした地域の特徴として、住宅環境の悪さ、都市計画や公共サービスの欠如、社会経済的な複雑さ、政治面や環境面の問題が挙げられます。これからの10年間、ウォーターエイドは都市化の進む地域での**取り組みを着実に拡大**し、活動全体の半分にまで増やす予定です。

▲ 正しい手洗い習慣の実践や自分たちの権利の要求についてコミュニティで啓蒙活動をする個人活動家のヘンリケ・アルベルトさん（モザンビーク、マプト、2020年2月）

水・衛生サービスの進捗状況は、国、地域、居住区、そして世帯によってもばらつきがあります⁵。社会から疎外されている人々、たとえば非正規居住区で暮らす女性、農村に住む障害のある子供、危険なうえに偏見の目で見られる職業の衛生作業員などは、基本的な水・衛生へのアクセスさえ、いくつもの障壁に直面しています。こうした生活に不可欠な水・衛生サービスから疎外されている人々のために変化を推し進めるには、公正を追求することが鍵となります。ウォーターエイドのあらゆる活動の基礎となるのは、水・衛生に対する人々の権利です。ウォーターエイドは、どこの誰であろうと関係なくすべての人のために、ジェンダー平等に重点を置きつつ、変化を促進していきます。



ウォーターエイドの 目標



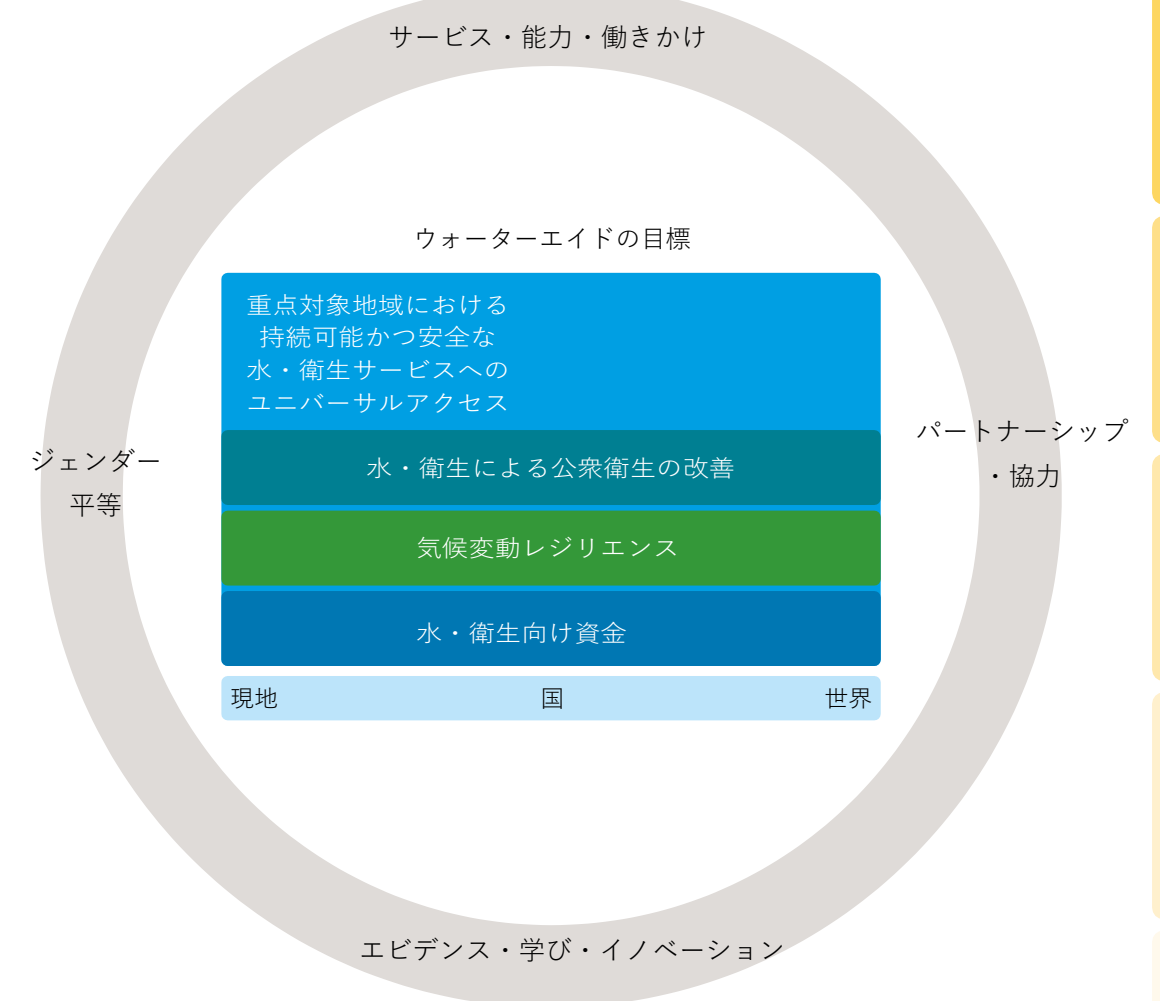
ウォーターエイドの支援を受けて校内に雨水貯留タンクが設置されたカヨロ中学校では、オリビアさんたち生徒がいつでも安全な水を利用できるようになりました（ガーナ、カッセーナ・ナンカタ・ウエスト郡、2019年2月）

これからの10年間、ウォーターエイドは、コミュニティや市民社会、行政機関、民間セクター、金融機関と協力しながら、最大の成果を生み出し、かつ、人々が行動を起こすよう働きかけることができる分野に注力していきます。ウォーターエイドは、諸機関・団体とともに活動しながらこれらの目標達成に向けて尽力することで、人々の暮らしを改善する大きな変化の実現を目指します。

この4つの目標達成に向けて成果をあげることで、すべての人々がすべての場所で持続可能かつ安全な水・衛生を利用できる世界という、ウォーターエイドのビジョンを実現するための歩みが加速されることになります。

ウォーターエイドは活動国とメンバー国のチーム全体で、この目標を最優先した取り組みによって活動の効果を最大化し、第4章に詳述するアプローチを通じて目標を達成します。

ウォーターエイドのアプローチ：しくみの強化



重点対象地域で持続可能かつ 安全なサービスへの ユニバーサルアクセスを実現し 変化を広く波及させる

理由

持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスを実現しようにも、さまざまな障壁が立ちはだかつて実現できない国が数多くあります。水・衛生を提供できたとしても、たいていは長期的に持続できず、失敗に終わってしまいます。この極めて大きな問題からはっきりと言えることは、大規模な変化を実現するには水・衛生システムの強化に的を絞って集中的に取り組む必要があるということです。現地の人々が主体となってさまざまな障壁を乗り越えたというポジティブで再現可能な事例があれば、そこから学びとエビデンスが生まれ、重点対象地域以外の場所でも権力のある立場の人々に情報提供や働きかけをおこなって変化を促すことができます。



WaterAid/Sharada Prasad

新しい装置と安全具が導入されたことでサービスを稼働させ続けるために不可欠なメンテナンス作業も作業員の安全も改善されました（インド、デリー、2019年10月）

方法

国や地域の戦略的パートナーと協力しながら県・郡や町で水・衛生システムの強化に取り組み、家庭や公共機関（学校、医療施設など）で誰もが持続可能で安全な水・衛生を利用できるようにします。こうした重点対象地域での活動は、その地域ですべての人が水・衛生にアクセス可能になり、規模を拡大できるようになるまで継続します。特に、水・衛生のアクセスから疎外されている人々に重点を置き、女性や女の子たちのニーズを最優先して活動します。

ウォーターエイドの施策

● **公的機関、民間組織、NGOと連携し、持続可能な水・衛生サービスと行動変容の実現・継続に成功した事例をモデルケースとして示す。**

● **水・衛生サービスの稼働を維持して衛生習慣を定着させるための制度・しくみが強化されるよう、政府や水・衛生サービス事業者と協力する。**これには主な関係者間の調整、計画の改善、予算の作成、サービスのコスト計算とモニタリングも含まれる。

● **水・衛生を利用する立場にある人々が声をあげ、代表者を通して意見を表明できるようにする。**特に、水・衛生分野のあらゆるレベルで女性や女の子たちが意思決定をおこない、リーダーシップを発揮できるようになることに重点を置く。

▶ デブレ・タボールの水道管網図を検討する水道施設責任者のムルケン・ワンディラッドさん。この町はヨークシャー・ウォーター社の資金援助を受けてエチオピアの20の町で実施されている都市部水・衛生事業者の能力向上プログラムの対象となっています（エチオピア、南ゴンドール県、2018年8月）

成果

対象の県・郡や町で持続可能かつ安全な水・衛生サービスへのユニバーサルアクセスが実現する。水・衛生セクターの関係者が効果的に役割と責任を果たす。

ジェンダーに対応した水・衛生の施策によって、すべての人が水・衛生サービスを平等に利用し、また、そのメリットを平等に受けられるようになる。女性や女の子たちによる意思決定への参加が増え、水・衛生を通じてジェンダー平等がさらに進む。

重点対象地域以外でも、ウォーターエイドが提供する調査結果、エビデンス、教訓にもとづいて、水・衛生サービスと行動変容が改善される。



WaterAid/Behailu Shiferaw

保健セクター全体で 水・衛生に優先的に取り組み 公衆衛生を改善する

理由

持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスは、人が健康に生きるために不可欠なものであり、新型コロナウイルス感染症などの病気、感染、パンデミックを防止・抑制するうえで第一の砦となります。それがあることで、医療の質、尊厳、安全が、特に女性と女の子たちにとって大きく改善されます。保健セクターによる取り組みがなければ、持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスは実現しません。そして、水・衛生がなければ、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態のこと）を実現することもできません。



安全で持続可能な水・衛生によって
ディアラマナ医療センターが変わる
のを目にしてきた看護師長のウム・
トラオレさん（マリ、セグー州、ブ
ラ圏、2018年4月）

WaterAid/Guilhem Alandry

方法

水・衛生を健全な公衆衛生に不可欠なものとして位置づけます。保健システムの強化に、水、衛生設備、衛生習慣の改善を組み込み、医療サービスの利用者や医療従事者の大部分を占める女性や女の子たちのニーズを最優先します。

ウォーターエイドの施策

● **公衆衛生における主要なプログラムと政策に衛生習慣の改善を組み込む。** 政府と協力しながら、衛生習慣を改善するためのインクルーシブで効果的な方法を設計し、それを既存の保健プログラムや啓発メッセージに組み込む。公衆衛生の緊急対策として、現地主導の衛生習慣改善キャンペーンを支援する。

● **インクルーシブで持続可能な水・衛生によって保健医療施設の医療の質を改善する。** 医療従事者や患者と協力してインクルーシブかつ持続可能な水・衛生サービスのモデルケースを作りつつ、水・衛生への投資や国の保健データシステムでの実績測定を促すアドボカシーをおこなう。

● **保健セクターが水・衛生に関する主導権と責任を持つよう促し、保健分野の意思決定者と協力しながら保健システムの強化や保健医療施設の取り組みに水・衛生が組み込まれるようにする。**

成果

ウォーターエイドの活動国で、持続可能で安全、かつジェンダーのニーズにも対応した給水・衛生設備を備えた保健医療施設の数が、国の目標数に達するか、それを上回る。

政府やパートナーが主な公衆衛生プログラムにインクルーシブかつ効果的な衛生習慣改善施策を大規模に取り入れ、重要な衛生習慣すべての改善が持続する。衛生習慣改善キャンペーンの計画・実施によって、病気の流行や公衆衛生の緊急事態の防止・対応が可能になる。

国の保健開発の予算と計画において、水・衛生が優先される。水・衛生と保健に関するウォーターエイドの活動によって、ジェンダーのニーズに対応し、女性のリーダーシップとエンパワーメントを促進するアプローチが実例として示される。



▶ ソッカさんが働くスロック・ヴィエン
医療センターでは、WASH FIT（医療施設
用の水・衛生改善ツール）を使って水・衛
生サービスを評価・改善しています（カン
ボジア、チョウク村、2020年7月）

WaterAid/Remissa Mak

気候変動に対する 水・衛生のレジリエンスを 強化する

理由

気候変動によって、水の量と質が変わり、水を確保できる可能性も変わります。干ばつ、嵐、洪水、異常気象が激しさを増し、頻繁に発生するようになることで、水の循環が悪影響を受け、水・衛生システムが脆弱な地域では被害がさらに悪化します。最も気候変動の被害を受けやすいのは、その原因から最もかけ離れた生活を送っている貧困下で暮らすコミュニティです。

持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスを実現するには、現在とこれからの気候の脅威に対応し、災害発生後すみやかにサービスを復旧してコミュニティが立ち直れるようなかたちで水・衛生を供給する以外に方法はありません。水は共有資源であり、セクターをまたいだ効果的な使用管理が必要です。

ウォーターエイドとパートナーの支援を受けて
飲用と農業用の持続可能で安全な給水設備が
建設されたカクヌン村では、マリアム・ソゴバ
さんやベンカディ女性グループの人たちが
以前より気候変動の被害を受けにくくなりました
(マリ、カクヌン村、2019年2月)



WaterAid/Basile Ouédraogo

方法

コミュニティの水・衛生サービスのレジリエンスを強化して現在とこれからの気候の脅威に対応し、水の安全保障、衛生サービスへのアクセス、適切な衛生習慣をコミュニティで維持できるようにします。

ウォーターエイドの施策

- **水・衛生サービスのレジリエンスを強化**し、コミュニティ、諸機関、水・衛生システム関連の事業者全般が気候変動の脅威やそれに対する脆弱性を分析したうえで適切な水・衛生サービスの設計・提供ができるよう支援する。水不足の環境で最も大きな影響を受ける女性や女の子たちの意見・参加を優先する。
- **水・衛生のレジリエンスを強化する気候変動ファイナンスへの投資を働きかける**。気候変動対策として水・衛生分野に投資することが気候変動による被害額をどれほど大きく削減できるかを実証する。
- **水の利用量が多いセクターにアプローチし、持続的に安全かつ必要な量の水を確保すること、水の安全保障と気候レジリエンスを改善**し、明らかに水不足の問題を抱えている人々と水源を守る。

▶ ラ・サバナでは降水量が減り、レティシア・ヘサユさんの家の横にある池のような地元の水源が早く枯れるようになっています。乾期になると、レティシアさんは毎日何時間もかけて徒歩で水をくみにいきます(コロンビア、プロイチョン、2021年1月)

成果

世界中で気候変動の適応策に持続可能かつ安全な水・衛生が組み込まれ、相当額の気候変動ファイナンスが気候レジリエンスの高い水・衛生サービスのために使用される。生活を支える水・衛生への経済的・社会的投資には必ず気候リスクの考えが取り入れられ、それが設計にも反映される。

ウォーターエイドの活動国で、国の政策・戦略のなかで水・衛生と気候変動適応策の整合性がとられ、気候レジリエンスの高い水・衛生のためのロードマップと予算が整備される。

ウォーターエイドの活動国すべてにおいて、水・衛生の気候レジリエンス強化と水・衛生サービスがジェンダーのニーズに対応し、社会的にインクルーシブで、女性のリーダーシップを促進するものとなる。



WaterAid/Keoma Zec

水・衛生向け資金の 量と質を向上させる

理由

水・衛生の進捗を妨げている主な要因は水・衛生向け資金が適切ではないことです。多くの国が既存の水・衛生システムを維持するだけでも費用の捻出に苦勞しており、SDGs目標6を達成するための新しいインフラの整備にいたっては、大きな資金不足に直面しています。

住民にとって水・衛生サービスの利用料金が高額で払えないケースも多く、そのことが資金不足につながっています。課税と所得再分配が不明確で、最も必要としている人々に水・衛生サービスを提供することが重視されず、税金が不適切に使われている場合もあります。持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスを実現するには、水・衛生向け資金の量・質ともに大きく向上させることが絶対条件となります。

方法

最も大きな開発の成果を生むことが可能である政府、ドナー、公共・民間の金融機関に重点を置いて、水・衛生向け資金の量と透明性を向上させるよう提言していきます。専門機関や市民社会グループと協力しながら予算の調査、そしてデータの収集や分析、公表をおこない、政府が責任を果たすよう働きかけます。ウォーターエイドの資金を活用して水・衛生向け資金の増加に貢献しうる組織や個人を巻き込み、水・衛生セクターがドナーや個人投資家にとって魅力的な、統制のとれたセクターとなるよう支援していきます。

ウォーターエイドの施策

- 低所得者層でも支払い可能な料金の水・衛生サービスの提供等、**政府による、より大きいかつ効果的な水・衛生への資金拠出を確保する。**
- SDGs目標6の達成に向けた資金の不足を解消するため、**政府開発援助（ODA）、気候ファイナンス、民間のファイナンスの拡大を呼びかけ提言する。**
- 貧困下で暮らす人々、ジェンダーや社会的身分といったアイデンティティのために社会から疎外されている人々に重点を置いて、**透明かつ効果的な方法で水・衛生向け資金が分配・使用されるようにする。**

成果

世界中で、低所得国・中所得国の水・衛生のために、国内外、公共、民間から新たな資金が寄せられる。

ウォーターエイドの活動国における水・衛生向け資金の質が、透明性、利用料金の手頃さ、公平性、持続可能性において、実質的に改善されている。

ウォーターエイドの活動国で、水・衛生の予算におけるジェンダー平等と社会的包摂性の優先度が高まる。



ウォーターエイドの「Deliver Life」プロジェクトの一環としてコミュニティに新設された給水場のひとつで働くティル・ゲタフンさん（25歳）（エチオピア、デレクワ、2020年2月）

▶ ポンプで清潔な水をくむマッタちゃん（9歳）（シエラレオネ、トンボフーワン、2017年5月）



4 ウォーターエイドの アプローチ

▲ ミーナさんの学校には持続可能で安全な給水設備がないため、生徒が教室を出て村で水を探すことがよくあります（ネパール、カパニ・トル、2021年4月）

▶ 手押しポンプ改良調査の試験的实施の一環として、1年間使用した後の状態を確認するため掘削井戸のパイプを取り外す手押しポンプ技術者たち（ウガンダ、マシディ県、ルコンドワ小学校、2020年11月）

これらの大きな目標を達成するために、ウォーターエイドはその目標全部にまたがる4つのアプローチで取り組みます。ウォーターエイドがどのように変化を促して将来のビジョンを実現させるかを、この包括的なアプローチが示しています。

水・衛生サービス、能力、働きかけ

ウォーターエイドが実施するどの活動も、水・衛生サービスを提供するだけでなく、それを能力強化や働きかけをおこなう活動と連携させたときに、最も大きな成果が生まれます。水・衛生の改善を阻む国や地域の問題を分析すると、どのようにこれらの施策のバランスをとれば、相乗効果が生まれて水・衛生システムを強化できるかがわかります。

ウォーターエイドは、水・衛生サービス事業者や国・地域当局の人材と組織の能力強化を支援することによって、持続可能でインクルーシブな水・衛生サービスの提供と行動変容のモデルケースがほかの地域にも拡大していくようにします。この取り組みには、計画立案・予算作成プロセスの強化、画期的な管理モデルの支援、水・衛生サービスの改善などが含まれます。ほかの関係者との連携やパートナーシップを通して、説明責任が果たされるしくみ、ジェンダー平等、技術基準、政策といった、水・衛生システムに関わる重要な部分の改善を図ります。また、女性や女の子たち、社会から疎外されている人々に重点を置いて、水と衛生設備を利用する権利の要求・実現に向けてともに活動していきます。最終的には、現地の人々と組織が主体となって、すべてのコミュニティにおける持続可能な水・衛生のアクセスの実現に向けて必要な変化を引き起こし、促進していくことを目指します。

働きかけについては活動国での取り組みを大幅に拡大し、また、首都ではハイレベルの意思決定に働きかけて、SDGs目標6達成に向けて進捗の加速を促します。セクターをまたいで働きかけの効果を最大限に高めるため、水・衛生セクター内外の関係者と連携します。広範囲の変化を促すために、政策の調査やロビー活動、アドボカシーを通して関係者との関係を築き、水・衛生の問題の位置づけを強化するよう働きかけます。活動国での変化を加速する取り組みに沿って、現地、国、地域、世界レベルで意思決定者に働きかけをおこない、水・衛生への投資に向けた世界的な事例を生み出していきます。



WaterAid/James Kiymba

パートナーシップ、協力

ウォーターエイドは何をする場合も常に、パートナーや協力団体とともに活動することを基本としてきました。SDGsの目標6の達成は、さまざまな関係者と協力して活動し、それぞれの強みを生かしてこそ可能となります。ウォーターエイドはこれからもこうした関係を築き、共通の目的に向かって協力しながら活動していきます。今後は、ウォーターエイドの取り組みを活かし、その影響力を使って、ほかの関係者とともに変化を促進する活動を拡大していくため、ウォーターエイド単独の成果は少なくなります。これはつまり、地域・国レベルで活動するほかの関係者に影響を与え、協力し合うことで、ウォーターエイドが取り組む活動の効果が高まるということです。したがって、コミュニティや市民社会、政府、民間セクター、国際金融機関、女性の権利擁護団体、学術研究機関との長期的な関係構築に、さらに積極的に取り組んでいきます。

民間セクターの役割やリソース、ノウハウなどが、ウォーターエイドの活動に有効であることが増えているとの認識に立ち、民間セクターと新しく多様な関係を築いていきます。トイレで働く衛生作業員から国際的な大企業や投資家まで、民間セクターとの協力・協働を通して、改善された水・衛生サービスを提供し、能力やアドボカシーを強化していきます。コミュニティの生活や持続可能で安全な水・衛生アクセスを阻害する活動・事業をするアクターに対しても、ともに働きかけて改善を求めます。また、以前からご支援いただいている方々との関係を強化しつつ、新しい支援者にも参加いただき、それを追い風としてミッションの実現を目指します。多種多様な関係者との関係をはぐくみ、それぞれの強みや専門性を相乗的に最大限まで高めることで、水・衛生システムを構成するさまざまな要素を強化していきます。



ジェンダー平等

ジェンダー間の力関係が不均衡でリソースの分配が不平等なために構造的な障壁が生まれ、それが結果的に、水・衛生の不備による影響が女性や女の子たちに偏ることにつながっています。水・衛生セクターでは、計画や実施、意思決定の段階で、女性や女の子たち特有のニーズが見過ごされたり、排除されたりすることがよく起きています。水・衛生のアクセスの欠如を補うために女性や女の子たちが無報酬でおこなっている水くみ等の日々の仕事についても、その価値が認められることもなければ、仕事の再分配が進められることもありません。女性や女の子たちが日々直面する安全上のリスクも考慮されていません。

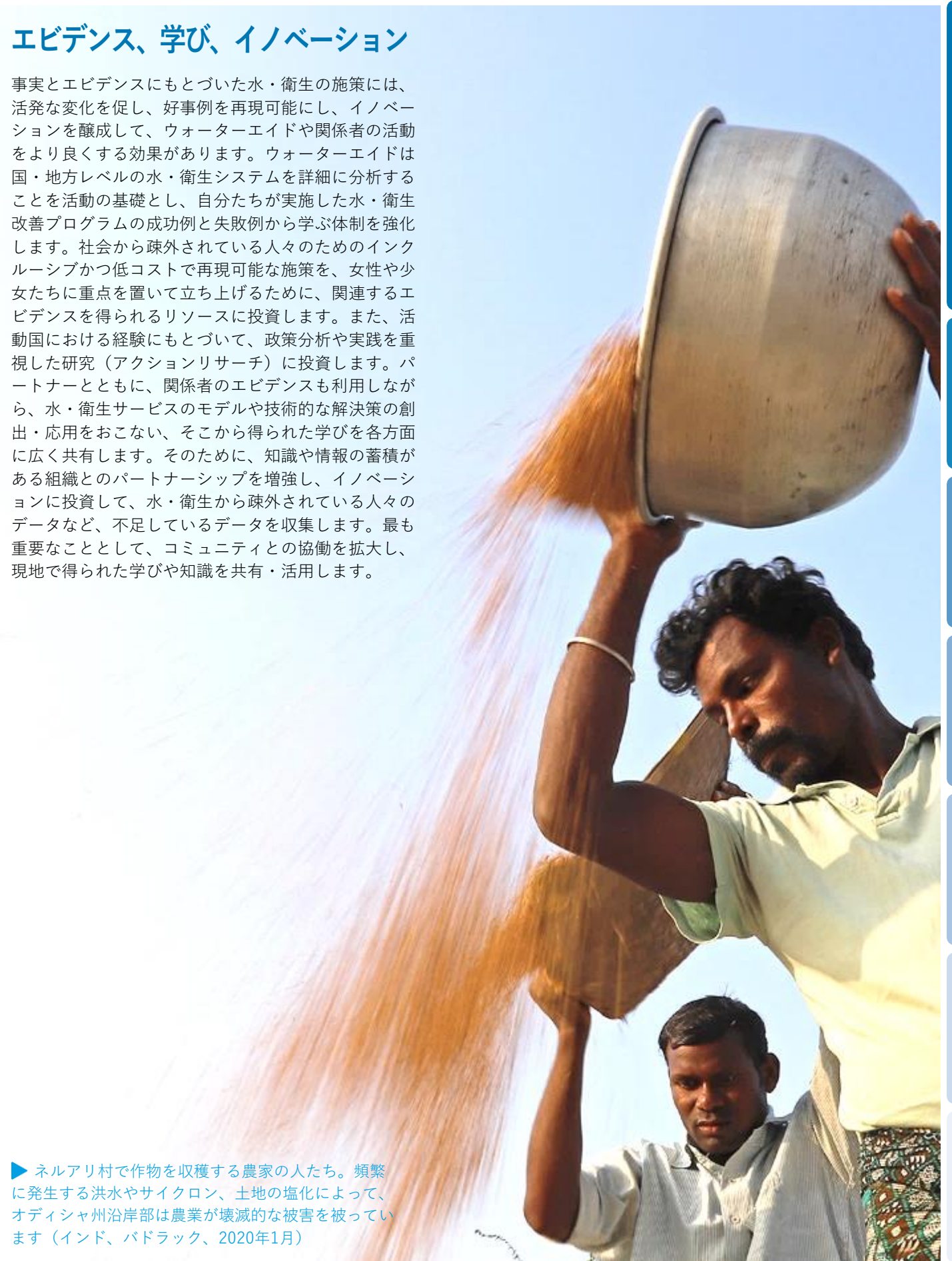
ウォーターエイドはあらゆる活動を通し、規範としくみを変えることによって、水・衛生におけるジェンダー平等を長期的に推進していきます。ジェンダーに対応した水・衛生を実施するにあたっては、「Do No Harm（害を与えてはならない）」という援助の理念に則ったアプローチを積極的に取り入れます。これまでの活動から得た学びをもとに、水・衛生のあらゆるレベル（家庭、コミュニティ、制度）を対象として力関係の不均衡をなくし、ジェンダー間の不平等の根本原因に取り組みます。また、活動のなかで、（多様なすべての）女性と女の子たちによるリーダーシップと意思決定をあらゆるレベルで促進・拡大します。月経に関する健康と衛生においては、さらに大きなリーダーシップを発揮していきます。女性の権利擁護団体とパートナーシップを結んで活動するなかで、その団体の専門知識をウォーターエイドにも取り入れ、ジェンダーに対応した水・衛生の施策モデル作成に活かして、ポジティブな社会規範の拡大、そしてネガティブな社会規範やステレオタイプの解消に取り組みます。さらに、ジェンダー平等を促進する活動を支えるため、ジェンダーに対応した水・衛生のモニタリングやデータ、調査を用いてエビデンス基盤の強化・拡大を図ります。ジェンダー平等を水・衛生の分野で促進することは、水・衛生アクセスという成果がただちに得られるだけでなく、女性や女の子たちに教育や保健、雇用の未来、そして安全な未来を開くうえでも大きく貢献することになります。

◀ デブレ・タボール・ウォーター・ユーティリティの設備購買・依頼担当者として水道設備の店で働くアレガシェ・アデイスさん（エチオピア、アムハラ、南ゴンダール県、2018年8月）

エビデンス、学び、イノベーション

事実とエビデンスにもとづいた水・衛生の施策には、活発な変化を促し、好事例を再現可能にし、イノベーションを醸成して、ウォーターエイドや関係者の活動をより良くする効果があります。ウォーターエイドは国・地方レベルの水・衛生システムを詳細に分析することを活動の基礎とし、自分たちが実施した水・衛生改善プログラムの成功例と失敗例から学ぶ体制を強化します。社会から疎外されている人々のためのインクルーシブかつ低コストで再現可能な施策を、女性や少女たちに重点を置いて立ち上げるために、関連するエビデンスを得られるリソースに投資します。また、活動国における経験にもとづいて、政策分析や実践を重視した研究（アクションリサーチ）に投資します。パートナーとともに、関係者のエビデンスも利用しながら、水・衛生サービスのモデルや技術的な解決策の創出・応用をおこない、そこから得られた学びを各方面に広く共有します。そのために、知識や情報の蓄積がある組織とのパートナーシップを増強し、イノベーションに投資して、水・衛生から疎外されている人々のデータなど、不足しているデータを収集します。最も重要なこととして、コミュニティとの協働を拡大し、現地で得られた学びや知識を共有・活用します。

▶ ネルアリ村で作物を収穫する農家の人たち。頻繁に発生する洪水やサイクロン、土地の塩化によって、オディシャ州沿岸部は農業が壊滅的な被害を被っています（インド、バドラック、2020年1月）





目標達成に向けて 変わるウォーターエイド

今後10年の戦略を実現するために、ウォーターエイドは組織内で大幅な変更を実施します。この変更によって、水と衛生の危機を永遠に終わらせるために定めた目標を達成する体制が整うことになります。

スタッフ、組織文化、パワー

ウォーターエイドのために、そしてウォーターエイドと一緒に活動するにふさわしい最適なスタッフの参加を促します。ウォーターエイドの強みはスタッフの多様性にあるため、今後も引き続き多様性を強化し、ウォーターエイドの目標達成に必要なスキルや手法など、スタッフの能力開発に投資します。これからの10年は世界中の職場環境が急速に変わる期間となりますが、評価の高い組織文化と高い水準のスタッフエンゲージメントを今後さらに強化していきます。スタッフが健全な職場環境で有意義な仕事を通して成長できるようにするため、あらゆる努力を尽くします。これからのフェーズで必要となるリーダーシップスキルの開発を継続しつつ、組織内での活発なコミュニケーションと柔軟な働き方を促進し、臆することなくオープンに意見交換ができるようにします。

ウォーターエイドでは世界中のスタッフの協力のもと、団体内の不平等なパワー（力関係）がどのように仕事に影響しているかを調査しました。ウォーターエイドは団体内でもパートナーやコミュニティとの関係においても、ミッション実現の障壁となる不均衡な力関係の是正に組織全体で取り組みます。また、活動における意思決定の権限は、その活動に最も近いところにいる人が持つこととします。戦略的意思決定においては、最大限の効果を得るために、団体内全部署のスタッフの意見が正しく代表されるよう改善します。さらに、理事会、リーダーシップチーム、グローバル部門の多様性を大幅に拡大し、活動状況に即した代表者が任に就くものとします。ウォーターエイドのミッション達成の可否は、これらの変化を実現できるかどうかにかかっています。

カトゥームさんと生後1か月の
赤ちゃん（シエラレオネ、トン
ボフワン村、2017年5月）

WaterAid/Joey Lawrence



WaterAid/Ernest Randriamalala



WaterAid/Joey Lawrence

▲ デレクワで暮らす人々は、以前は不衛生な泉の水を飲んでいました。現在、ミルさんのコミュニティでは、ウォーターエイドの支援で設置された持続可能で安全な太陽光発電の給水設備を使っています（エチオピア、デレクワ、2020年2月）

活動地域

団体のリソースを集約し、集中的な取り組みをおこないます。ウォーターエイドが目指しているのは最高レベルの質と成果を活動国で実現することです。そのためには、グローバルな組織全体でこれまでよりもさらに集中的取り組みを強化し、各国プログラムのリソースとスキルレベルを最大限に高める必要があります。したがって、各国プログラムのリソースを全体的に増強し、活動地域を絞って深く関わることになります。

活動資金

戦略を効果的に実現する資金を確保するため、10年以内に年間収入をグローバル目標の1億5,000万～1億8,000万ポンドにまで拡大します。これまでの大きな成果を支えてくださったドナーや支援者の方々と確かな関係を維持し、発展させていきます。また、今後も世界中で、個人や組織の方々にウォーターエイドをご支援いただける地域でのプレゼンスを拡大し、ウォーターエイドのミッションへの関心を高め、ミッション実現のための新たなご支援を拡大していきます。



WaterAid/Ernest Randriamalala

ノルベルト・ランドリアナトアンドロさん（81歳）は、安全で持続可能な給水設備がウォーターエイドとパートナーによって自宅のそばに設置されたことで、もう危険な坂道を下って水くみに行かなくてもよくなりました（マダガスカル、アナラマンガ地域圏、マンジャカンドリアナ・コミュニティ、マリンジャラ・フクンターニ、2021年11月）

ウォーターエイドはパートナーや支援者の皆さまとともに、ウォーターエイドの活動が必要でなくなるその日まで、確固たる決意を持って活動を続けます。毎日の水くみの苦労が永遠に過去のものとなり、女の子たちがどこへ行ってもトイレを利用できると安心していられる世界。病院が清潔で、手洗いが習慣になっている世界。気候変動の影響に対するレジリエンスがコミュニティに備わっている世界。水と衛生の提供を任務とする人たちが義務感と責任感を持って仕事をし、そのおかげで誰ひとりとして水・衛生の心配をする必要がない世界。

それが、ウォーターエイドが目指す世界です。

用語集

Term	Definition
アクションリサーチ	実践を重視した研究。何らかの活動を実践しながら研究を進め、研究を実践に応用していく。
能力の強化	個人、集団、組織またはシステムの能力を改善し、効果的に機能するために必要な新しい知識、スキル、プロセス、構造を強化・開発することで目標の持続的実現を目指す計画的プロセス。
経済成長	国の生産性が全体的に向上すること。国内総生産（GDP）で測られる。生産性とは、国が物品やサービスを自国の資源から生産する能力を意味する。経済成長が適切かつ公平に実現できれば、生活水準の改善が可能となる。
後発開発途上国	重大な構造的障害が持続可能な開発の妨げとなっている低所得国。経済的・環境的打撃に対する脆弱性が高く、人的資産の技能水準が低い。
低所得国・中所得国	各国の国民総所得（GNI）に基づく分類 ¹⁰ で、1人あたりGNIが1,045ドル未満の国が低所得国、1,046～4,095ドルの国が中所得国とされている。
政府開発援助（ODA）	政府開発援助（ODA）は、開発援助委員会（DAC）により、“開発途上国”の経済発展や福祉向上を促進するために政府が提供する援助と定義。DACは1969年に“ゴールドスタンダード”としてODAを採用し、ODAは現在も開発援助の主な資金源となっている。
権利基盤型アプローチ（ライツベースアプローチ）	人々が自分の権利を要求できるようエンパワーメントをおこない、責務履行者がその権利を実現する責任を果たせるよう支援し、政策、手続き、態度、行動の構造的変化を通してその権利が維持されるようにすること。

Term	Definition
サービス事業者	水道事業者やトイレのくみ取り業者など、管理された水・衛生サービスをまとめた規模で利用者に提供するための主要な要素を担う公共または民間の組織事業体。
持続可能性（サステナビリティ）	長期的に水供給・衛生サービスと適切な衛生習慣が継続し、そのメリットが実現されるかどうかということ。
構造的変革（システミックチェンジ）	複雑なシステムのあらゆる部分に影響し、各部分の相互関係や相互依存性が考慮された変革。通常、システムの機能に大きなプラスの効果を与える恒久的変化を指す。
しくみの強化	持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセスを阻む障壁に取り組むための、分析、実施、適応、学びのプロセス。複雑かつダイナミックなシステムを構成するさまざまな関係者や要素が相乗効果を生むことによって、結果的にこのユニバーサルアクセスが実現するとの認識に立つ。
ユニバーサルアクセス	社会的・経済的・政治的な立場に関係なく、すべての人が水供給・衛生サービスを利用できること。ウォーターエイドでは、最低でもSDGs目標6の指標が定める基本的なレベルのサービスを利用できることを意味する。
水・衛生システム	持続可能で安全な水・衛生へのユニバーサルアクセス実現に影響するすべての関係者（個人、組織）、要素（社会、経済、政治、環境、技術に関するもの）、およびそれらの相互作用。
女性のエンパワーメント	女性と女の子たちの自己決定権を向上させることにより、社会で平等な役割を果たし、社会経済的・政治的プロセスに活発に参加できるようにすること。

参考文献

- ¹ Foster T (2013). Predictors of Sustainability for Community-Managed Handpumps in Sub-Saharan Africa: Evidence from Liberia, Sierra Leone, and Uganda. *Environ. Sci. Technol.* vol 47, no 21, pp 12037–12046. Available at: pubs.acs.org/doi/10.1021/es402086n (accessed 8 Dec 2021).
- ² Prüss-Ustün A, et al. (2019). Burden of Disease from Inadequate Water, Sanitation and Hygiene for Selected Adverse Health Outcomes: An Updated Analysis with a Focus on Low- and Middle-Income Countries. *Int. J. Hyg. Environ. Health.* vol 222, no 5, pp 765-777. Available at: doi.org/10.1016/j.ijheh.2019.05.004 (accessed 8 Dec 2021).
- ³ WaterAid (2015). *The economic case for WASH*. Available at: washmatters.wateraid.org/sites/g/files/jkxoof256/files/5%20The%20economic%20case%20for%20WASH.pdf (accessed 2 Nov 2021).
- ⁴ WaterAid/Vivid Economics (2021). *Mission-critical: Invest in water, sanitation and hygiene for a healthy and green economic recovery*. Available at: washmatters.wateraid.org/sites/g/files/jkxoof256/files/mission-critical-invest-in-water-sanitation-and-hygiene-for-a-healthy-and-green-economic-recovery_2.pdf (accessed 12 Oct 2021).
- ⁵ WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply, Sanitation and Hygiene (2021). *Progress on household drinking-water, sanitation and hygiene: Five years into the SDGs*. Available at: who.int/publications/i/item/9789240030848 (accessed 8 Dec 2021).
- ⁶ Curtis V, Cairncross S (2003). Effect of washing hands with soap on diarrhoea risk in community: a systematic review. *Lancet Infect Dis.* vol 3, pp 275-81. Available at: pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/12726975/ (accessed 8 Dec 2021).
- ⁷ UNESCO/WWAP (2017). *UN World Water Development Report, Wastewater: The Untapped Resource*. Available at: unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000247153 (accessed 8 Dec 2021).
- ⁸ Sustainable Development Solutions Network/Bertelsmann Stiftung (2021). *Sustainable Development Report 2021: The Decade of Action for the Sustainable Development Goals*. Available at: s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment-report/2021/2021-sustainable-development-report.pdf (accessed 13 Dec 2021).
- ⁹ The World Bank (2021). *Urban population growth (annual %)*. Available at: data.worldbank.org/indicator/SP.URB.GROW (accessed 13 Dec 2021).
- ¹⁰ The World Bank (2021). *World Bank Country and Lending Groups*. Available at: datahelpdesk.worldbank.org/knowledgebase/articles/906519 (accessed 16 Dec 2021).



持続可能で安全な水、衛生設備、衛生習慣がなければ、誰も健康な生活を満足に送ることはできません。

目的意識やアプローチを大きく変えない限り、2030年までに水と衛生を世界中のすべての人に届けるという世界の約束は、これから何十年も先まで果たすことができません。これは到底受け入れられることではなく、必要でもなければ正しいことでもありません。

ウォーターエイドは最大限の決意と情熱と目的意識をもって活動し、世界中のすべての人に清潔な水、適切なトイレ、正しい衛生習慣を届けます。

これは起こすことのできる変化です。実現は可能です。

WaterAid/Aida Muluneh



◀ 写真家アイダ・ムルネさんの「Water Life」シリーズ作品のひとつ、この「Knowing the way to tomorrow」には、水くみの仕事を担う女性の強さ、この日々の負担から解放される明日への希望が表現されています（ウォーターエイド制作依頼、H&M基金協賛）

表紙写真：村で水と衛生設備を利用できるようになってから、アリヤさん、ンジヴァさん、オノリーヌさん、フェニトリニアンさんのような少女たちが教育を受け、夢を追いかけられるようになりました（マダガスカル、ツィルヌマンディディ郡、2018年6月）

ウォーターエイドは、今世代のうちに清潔な水、適切な衛生設備、正しい衛生習慣を世界中のすべての人にとってあたりまえにすることを目指す国際NGOです。生活に不可欠なこの3つを確保する取り組みを継続してはじめて人々の暮らしを恒久的に改善することができます。

